



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和3年12月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数370人

育てたように子は育つ

校長 清水 励

12月となりました。年末となる慌ただしさの中にも、思いのほか長く続いている全国的なコロナの沈静化に、ホッと安堵の思いがしております。学校においては、徐々に教育活動の制限緩和を進めておりますが、「コロナ禍以前に行えていた活動」を「コロナ禍以前より質の高い活動」として再開できるよう取り組んでまいりたいと思います。

さて、「育てたように子は育つ」という言葉があります。相田みつおさんの本の題名でもあり、聞いたことがある方は多いと思います。この言葉、使われる場面によっては、親にとっては耳の痛い、「親としての教育やしつけ」に対する厳しい評価として受け止められる場合もあることかと思えます。



この「育てたように子は育つ」という言葉は、間違いなく「**真実**」だと思います。

でも、「いやいや、私はそんな子に育てた覚えはないんですけど…、なんでなんででしょうね…？」という親御さんも、少なからずいらっしゃることでしょう。私事で恐縮ですが、二人の成人した愚息をもつ父として、二人ともおおむね素直にまっすぐ育ってくれて良かったと思っているものの、「なんで、こんな風に育ったかなあ…」と思う部分も正直あります…。

その答えとなる、もう一つの有名な言葉があります。それは「**親の背を見て子は育つ**」です。親が子供たちを見ている以上に、子供たちは親のことをよく見ています。そして、感じています。なので、「〇〇しなさい。」というような直接の指示よりも、親の振る舞いが子供たちの変容に大きな影響を与えるようです。例えば、「勉強しなさい！」と言われるよりも、親が読書したり色々な学びに楽しく取り組んだりしている姿を子供が目に見ていると、自然と子供に学びの習慣が身に付きます。また、「人にやさしく、だれとでも仲良くしなさい。」などと言われるよりも、親が分け隔てなく他者への心配りしながら、他者と楽しそうに関わっている姿を目にする方が、子供たちの社会性の芽は健やかに伸びていきます。

しかし、親も教師も人間です。完璧な「聖人」ではないので、足りないことや失敗してしまうこともあるでしょう。（もしも完璧な「聖人」だったら、子供たちにとっては人間味がなくてつまらない存在になってしまうかも知れません…）ですので、失敗を失敗で終わらせないために大切なことが、二つあると思います。

一つ目は、「**しっかり我が身を振り返ること**」。他者の文句や揚げ足取りはとても簡単なことで、実は自分を正当化しバランスを保つために最も簡単な方法です。けれども残念なことに、人を傷つけることで人を変えたり動かしたりすることはできません。まずは「**他者に伝えたいことがあれば、自分が相手をしっかりと受け止めること**」、そして、「**自分が頑張らなくてはいけない部分は何か**」に焦点を当てて、冷静に「**しっかり我が身を振り返ること**」が大切です。この姿勢が子供の成長に与える影響はとても大きく、本校の職員や子供たちに最も多く伝えていることであり、自分自身も忘れずに実践しようと努力していることです。

二つ目は、「**愛情をもつこと**」。子育てに唯一無二の正解はありません。この方法はどうか？と思われる接し方をしてしまったとしても、「子供のより良き成長のため」という愛情をもった働きかけならば、子供には通じるときが必ず来ます。子供を信じるということは、大人の価値観を押し付けたり、結果を急ぎ過ぎたりせず、「いつかはきっと…」と、信じ続けて待つことなのではないでしょうか。

子供たちは、すぐに私たち大人の手から離れていきます。自分の力で生きていかなければならない時に、しっかりと自立し、他者との協働の中で社会参画ができるよう、その素地となる力を身に付けさせていきたいと思えます。今後も、学校・家庭・地域の相互理解を大切にしながら教育活動にあたってまいりたいと思えます。どうぞ、よろしくお願いいたします。